

令和元年度

荒尾市水道事業会計
決算の状況

令和2年10月

荒尾市企業局

1. 業務の状況

項目	単位	令和元年度	平成30年度	増減	伸率(%)	備考
行政区域内人口	人	51,910	52,525	△ 615	△ 1.2	
年度末給水人口	人	49,717	50,298	△ 581	△ 1.2	
普及率	%	95.8	95.8	0.0		
年間総配水量	m ³	5,650,090	5,667,618	△ 17,528	△ 0.3	
年間有収水量	m ³	5,019,008	5,022,772	△ 3,764	△ 0.1	
有収水量率	%	88.8	88.6	0.2		
1日平均配水量	m ³	15,437	15,528	△ 91	△ 0.6	
1日最大配水量	m ³	16,951	17,015	△ 64	△ 0.4	

有収水量の推移

年度	水量(m ³)	増減率(%)
H21	5,135,576	0.1
H22	5,074,266	△ 1.2
H23	5,018,308	△ 1.1
H24	4,931,515	△ 1.7
H25	4,894,701	△ 0.7
H26	5,078,848	3.8
H27	5,105,510	0.5
H28	5,101,638	△ 0.1
H29	5,051,674	△ 1.0
H30	5,022,772	△ 0.6
R1	5,019,008	△ 0.1

平成26年度から開始した水道一元化事業により、有収水量は増加となったが、近年は人口減少の流れと節水型機器の普及、家庭や企業において節水意識が高まったこと等により減少傾向である。

2. 経営の状況

(収益的収入)

(単位:千円)

	令和元年度		平成30年度		対前年度比		水道ビジョン (R1)
	決算額	構成比(%)	決算額	構成比(%)	増減	伸率(%)	
1. 営業収益	752,872	72.5	746,848	71.5	6,024	0.8	741,033
①給水収益	750,312	72.3	744,474	71.3	5,838	0.8	738,610
②その他の営業収益	2,560	0.2	2,374	0.2	186	7.8	2,423
2. 営業外収益	285,472	27.5	297,668	28.5	△ 12,196	△ 4.1	283,529
①受取利息	27	0.0	26	0.0	1	3.8	65
②他会計補助金	47,319	4.6	49,534	4.7	△ 2,215	△ 4.5	57,100
③長期前受金戻入	210,118	20.2	207,710	19.9	2,408	1.2	200,000
④雑収益	28,008	2.7	32,898	3.1	△ 4,890	△ 14.9	26,364
⑤引当金戻入益	0	0.0	0	0.0	0	—	
⑥補助金	0	0.0	7,500		△ 7,500	△ 100.0	
3. 特別利益	0	0.0	0	0.0	0	—	
①過年度損益修正益	0	0.0	0	0.0	0	—	
計	1,038,344	100.0	1,044,516	100.0	△ 6,172	△ 0.6	1,024,562

(収益的支出)

(単位:千円)

	令和元年度		平成30年度		対前年度比		水道ビジョン (R1)
	決算額	構成比(%)	決算額	構成比(%)	増減	伸率(%)	
1. 営業費用	885,879	92.8	863,439	92.1	22,440	2.6	932,826
①職員給与費	50,722	5.3	49,478	5.2	1,244	2.5	42,597
給料	25,449	2.7	24,785	2.6	664	2.7	
手当等	17,413	1.8	17,183	1.8	230	1.3	
法定福利費	7,860	0.8	7,510	0.8	350	4.7	
②経費	437,358	45.8	427,141	45.7	10,217	2.4	489,614
修繕費	1,685	0.2	2,018	0.2	△ 333	△ 16.5	
委託料(包括:修繕費)	62,065	6.5	51,411	5.5	10,654	20.7	66,941
委託料(包括:動力費)	53,125	5.6	52,214	5.6	911	1.7	52,945
委託料(包括:その他)	171,696	18.0	172,130	18.4	△ 434	△ 0.3	206,988
委託料(包括以外)	93,986	9.8	96,265	10.3	△ 2,279	△ 2.4	81,864
受水費	401	0.0	398	0.0	3	0.8	
その他	54,400	5.7	52,705	5.7	1,695	3.2	80,876
③減価償却費	389,847	40.9	379,087	40.4	10,760	2.8	397,364
④資産減耗費	7,952	0.8	7,733	0.8	219	2.8	3,251
2. 営業外費用	69,305	7.2	73,810	7.9	△ 4,505	△ 6.1	76,621
①支払利息	69,207	7.2	73,181	7.8	△ 3,974	△ 5.4	76,600
②雑支出	98	0.0	629	0.1	△ 531	△ 84.4	21
計	955,184	100.0	937,249	100.0	17,935	1.9	1,009,447

(損益収支)

(単位:千円)

	令和元年度	30年度	増減	水道ビジョン(R1)
当年度純利益	83,160	107,267	△ 24,107	15,115
前年度繰越利益剰余金	68,022	40,755	27,267	
その他未処分利益剰余金変動額	21,163	51,198	△ 30,035	
当年度未処分利益剰余金	172,345	199,220	△ 26,875	
内部留保資金	734,747	672,749	61,998	517,962

収益的収入支出の説明

(収入)

(単位:千円)

科目	金額	説明	
給水収益	750,312	一般用 749,999	浴場用 288
		特別用 25	
その他の営業収益	2,560	消火栓維持管理負担金 935	手数料 396
		督促手数料 1,229	
受取利息	27	預金利息 27	
他会計補助金	47,319	簡水利子繰入金 276	閉山炭鉱利子繰入金 46,457
		児童手当繰入金 586	
長期前受金戻入	210,118	国庫補助金戻入 72,305	他会計補助金戻入 106,312
		工事負担金戻入 13,836	他会計負担金戻入 6,578
		受贈財産評価額戻入 11,087	
雑収益	28,008	下水道料金事務委託料 27,142	行政財産使用料 52
			その他 814

(支出)

(単位:千円)

科目	金額	説明	
職員給与費	50,722	給料・報酬 25,449	管理職手当 516
		扶養手当 858	期末勤勉手当 6,710
		通勤手当 189	宿日直手当 2
		住居手当 508	時間外勤務手当 160
		引当金繰入額 3,974	児童手当 635
		法定福利費 7,860	退職給付費 3,861
修繕費	1,685	原水一般修理 34	庁舎・車両修理 1,074
		水源施設管理負担金 577	
委託料	380,872	維持管理業務委託 77,692	包括委託 286,886
		水質検査委託 2,833	その他 13,461
受水費	401	受水 401	
その他	54,400	賃借料 424	啓発費 333
		通信運搬費 2,925	材料費 134
		手数料 2,192	負担金 558
		ダム管理負担金 45,522	その他 2,312
減価償却費	389,847	建物減価償却費 8,858	構築物減価償却費 247,953
		機械及び装置減価償却費 82,920	工具及び備品減価償却費 6,519
		無形固定資産減価償却費 43,597	
資産消耗費	7,952	固定資産除却費 7,948	棚卸資産減耗費 4
支払利息	69,207	財政省 43,126	民間等資金 259
		地方公共団体金融機構 25,822	
雑支出	98	雑支出 98	

収益的収支については、収益10億3834万4千円に対し、費用9億5518万4千円で、収支差引8316万円の黒字決算となった。

3. 建設改良事業等の収支状況(税込)

(資本的収入)

(単位:千円)

	令和元年度		平成30年度		対前年度比		水道ビジョン (R1)
	決算額	構成比(%)	決算額	構成比(%)	増減	伸率(%)	
1. 企業債	278,300	64.0	172,300	50.1	106,000	61.5	237,890
2. 工事負担金	8,195	1.9	11,536	3.4	△ 3,341	△ 29.0	12,315
3. 他会計負担金	6,477	1.5	4,021	1.2	2,456	61.1	4,050
4. 補助金	142,067	32.6	155,867	45.3	△ 13,800	△ 8.9	111,400
計	435,039	100.0	343,724	100.0	91,315	26.6	365,655

(資本的支出)

(単位:千円)

	令和元年度		平成30年度		対前年度比		水道ビジョン (R1)	
	決算額	構成比(%)	決算額	構成比(%)	増減	伸率(%)		
1.建設改良費	421,653	62.9	347,772	59.3	73,881	21.2	339,843	
①配水設備拡張費	93,194	13.9	128,239	21.9	△ 35,045	△ 27.3		
委託料(包括:工事費)	52,510	7.8	91,046	15.5	△ 38,536	△ 42.3		
委託料(包括:その他)	38,839	5.8	35,219	6.0	3,620	10.3		
その他	1,845	0.3	1,974	0.4	△ 129	△ 6.5		
②配水設備改良費	318,618	47.5	174,355	29.7	144,263	82.7		
委託料(包括:工事費)	256,668	38.2	153,678	26.2	102,990	67.0		
委託料(包括:その他)	19,184	2.9	19,008	3.2	176	0.9		
施設整備費	42,766	6.4	1,669	0.3	41,097	2,462.4		
③営業設備費	9,841	1.5	45,178	7.7	△ 35,337	△ 78.2		
委託料(包括:工事費)	7,301	1.1	14,321	2.4	△ 7,020	△ 49.0		
備品購入費	2,540	0.4	30,857	5.3	△ 28,317	皆増		
2. 企業債償還金	249,209	37.1	239,101	40.7	10,108	4.2		254,600
計	670,862	100.0	586,873	100.0	83,989	14.3		594,443

(資本的収支)

(単位:千円)

	令和元年度	30年度	増減	水道ビジョン(R1)
資本的収支不足額	235,823	243,149	△ 7,326	228,788
補填財源	過年度分	0	0	0
	当年度分	235,823	243,149	△ 7,326

資本的収入支出の説明

(収入)

(単位:千円)

科目	金額	説明	
企業債	278,300	財務省	0 地方公共団体金融機構 278,300
工事負担金	8,195	工事負担金	2,500 下水道工事に伴う負担金 5,695
他会計負担金	6,476	消火栓新設負担金	6,476
補助金	142,067	国庫補助金	432 他会計補助金 141,635

(支出)

科目	金額	説明	
企業債償還金	249,209	財務省	131,333 民間等資金 21,663
		地方公共団体金融機構	96,213

4. 財政の状態

(資産の部)

(単位:千円)

	令和元年度		平成30年度		対前年度比		
	決算額	構成比(%)	決算額	構成比(%)	増減	比率(%)	
資産合計	11,323,584	100.0	11,183,378	100.0	140,206	1.3	
固定資産	有形固定資産	8,489,160	75.0	8,457,007	75.6	32,153	0.4
	無形固定資産	1,713,769	15.1	1,757,367	15.7	△ 43,598	△ 2.5
	計	10,202,929	90.1	10,214,374	91.3	△ 11,445	△ 0.1
流動資産	現金預金	1,074,674	9.5	908,019	8.1	166,655	18.4
	未収金	41,867	0.4	56,906	0.5	△ 15,039	△ 26.4
	貯蔵品	4,114	0.0	4,079	0.1	35	0.9
	短期貸付金	0	0.0	0	0.0	0	-
	計	1,120,655	9.9	969,004	8.7	151,651	15.7

(負債資本の部)

(単位:千円)

	令和元年度		平成30年度		対前年度比		
	決算額	構成比(%)	決算額	構成比(%)	増減	比率(%)	
負債資本合計	11,323,584	100.0	11,183,378	100.0	140,206	1.3	
負債合計	7,354,071	64.9	7,297,025	65.3	57,046	0.8	
固定負債	企業債	3,810,869	33.7	3,790,941	33.9	19,928	0.5
	退職給付引当金	34,886	0.3	31,025	0.3	3,861	12.4
	修繕引当金	25,146	0.2	25,146	0.2	0	0.0
	計	3,870,901	34.2	3,847,112	34.4	23,789	0.6
流動負債	企業債	256,879	2.3	247,716	2.2	9,163	3.7
	未払金	320,838	2.8	233,061	2.1	87,777	37.7
	引当金	3,974	0.0	5,950	0.1	△ 1,976	△ 33.2
	その他流動負債	1,064	0.0	1,073	0.0	△ 9	△ 0.8
	計	582,755	5.1	487,800	4.4	94,955	19.5
繰延収益	長期前受金	5,565,785	49.2	5,419,203	48.5	146,582	2.7
	長期前受金累計額	△ 2,665,370	△ 23.6	△ 2,457,090	△ 22.0	△ 208,280	8.5
	計	2,900,415	25.6	2,962,113	26.5	△ 61,698	△ 2.1
資本合計	3,969,513	35.1	3,886,353	34.7	83,160	2.1	
資本金	資本金	3,142,813	27.8	3,091,615	27.6	51,198	1.7
	計	3,142,813	27.8	3,091,615	27.6	51,198	1.7
剰余金	資本剰余金	70,790	0.6	70,790	0.6	0	0.0
	利益剰余金	755,910	6.7	723,948	6.5	31,962	4.4
	計	826,700	7.3	794,738	7.1	31,962	4.0

水道事業のキャッシュ・フロー計算書

(単位:円)

区 分	令和元年度	平成30年度	対前年度増減額
1 業務活動によるキャッシュ・フロー			
当年度純利益	83,160,583	107,266,981	△ 24,106,398
減価償却費	389,847,298	379,086,774	10,760,524
固定資産除却費	7,947,864	7,531,625	416,239
減損損失	0	0	0
貸倒引当金の増減額	△ 7,879	116,197	△ 124,076
引当金の増減額	1,885,000	1,465,294	419,706
長期前受金戻入額	△ 210,117,679	△ 207,710,368	△ 2,407,311
受取利息及び受取配当金	△ 26,680	△ 25,556	△ 1,124
支払利息	69,207,275	73,181,046	△ 3,973,771
固定資産売却損益	0	0	0
過年度損益修正損益(△は増加)	0	0	0
未収金の増減額(△は増加)	13,343,926	△ 428,697	13,772,623
受取手形の増減額(△は増加)	0	0	0
たな卸資産の増減額(△は増加)	△ 34,186	207,730	△ 241,916
その他流動資産の増減額(△は増加)	0	0	0
特定収入仮払消費税の調整額	△ 8,125,968	△ 12,624,072	4,498,104
未払金の増減額(△は減少)	△ 781,609	34,697,331	△ 35,478,940
前受金の増減額(△は減少)	0	0	0
その他流動負債の増減額(△は増加)	△ 9,150	25,760	△ 34,910
小計	346,288,795	382,790,045	△ 36,501,250
利息及び配当金の受取額	26,680	25,556	1,124
利息の支払額	△ 69,207,275	△ 73,181,046	3,973,771
業務活動によるキャッシュ・フロー	277,108,200	309,634,555	△ 32,526,355
2 投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産の取得による支出	△ 297,791,259	△ 318,471,983	20,680,724
有形固定資産の売却による収入	0	0	0
無形固定資産の取得による支出	0	0	0
無形固定資産の売却による収入	0	0	0
有価証券の取得による支出	0	0	0
有価証券の売却による収入	0	0	0
貸付けによる支出	0	0	0
貸付金の回収による収入	0	0	0
国庫補助金等による収入	432,000	13,333,000	△ 12,901,000
一般会計又は他の特別会計からの繰入金による収入	145,792,928	138,375,886	7,417,042
寄附金による収入	0	0	0
負担金による収入	12,022,600	16,318,892	△ 4,296,292
出資による支出	0	0	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 139,543,731	△ 150,444,205	10,900,474
3 財務活動によるキャッシュ・フロー			
一時借入れによる収入	0	0	0
一時借入金の償還による支出	0	0	0
建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入	278,300,000	172,300,000	106,000,000
建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出	△ 249,209,059	△ 239,100,846	△ 10,108,213
その他の企業債による収入	0	0	0
その他の企業債の償還による支出	0	0	0
建設改良費等の財源に充てるための他会計借入金による収入	0	0	0
建設改良費等の財源に充てるための他会計借入金の償還による支出	0	0	0
その他の他会計借入金による収入	0	0	0
その他の他会計借入金の償還による支出	0	0	0
他会計からの出資による収入	0	0	0
リース債務の返済による支出	0	0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	29,090,941	△ 66,800,846	95,891,787
資金の増加額(又は減少額)	166,655,410	92,389,504	74,265,906
資金期首残高	908,018,753	815,629,249	92,389,504
資金期末残高	1,074,674,163	908,018,753	166,655,410

水道事業の主な経営指標

区 分	単位	R1年度	H30年度	H29年度	類似団体
1.事業の概要					
普及率	%	95.8	95.8	95.7	77.6
1人1日平均有収水量	ℓ	276	274	272	303
有形固定資産減価償却率	%	43.6	42.4	41.1	46.3
2.施設の効率性					
有収水量率	%	88.8	88.6	88.0	88.2
配水負荷率	%	91.1	91.3	91.4	87.8
施設利用率	%	66.5	69.3	70.2	58.3
最大稼働率	%	73.1	76.0	76.9	66.5
配水管使用効率	m ³ /m	12.7	12.9	13.1	21.3
固定資産使用効率	m ³ /万円	6.7	6.7	6.8	7.1
3.経営の効率性					
総収支比率	%	108.7	111.4	112.4	113.7
経常収支比率	%	108.7	111.4	112.4	113.9
繰入金比率(収益的収入)	%	4.6	4.8	5.0	1.4
給水収益に占める割合					
うち企業債利息	%	9.2	9.8	10.3	5.9
うち減価償却費	%	52.0	50.9	49.7	45.3
供給単価	円	149.49	148.22	147.32	137.02
給水原価	円	148.45	145.25	141.5	129.84
料金回収率	%	100.7	102.0	104.1	105.5
4.財務の状況					
流動比率	%	192.3	198.6	197.7	386.3
当座比率	%	191.6	197.8	196.7	362.2
自己資本構成比率	%	60.7	61.0	60.9	74.5
固定資産対長期資本比率	%	95.0	95.5	96.0	89.4

水道事業の経営指標(令和元年度決算)

○本市の経営状況と類型区分(令和元年度末現在)

給水人口	主な水源	経常収支比率	累積欠損金比率	不良債務比率
49,717	地下水・河川水	108.7	—	—

・給水人口区分 5万人以上10万人未満(平成30年度実績)

・類団平均は、30年度決算数値により総務省が算出した指標を用いた。

1 事業の概要

(1) 普及率(%)

荒尾市		類団平均
R1年度	H30年度	H30年度
95.8	95.8	77.6

《算式》 普及率＝給水人口÷行政区域内人口

《説明》 市域内での水道の使用割合(普及)をみるもの。

《分析結果》 荒尾市の水道普及率は、類似団体平均を上回っており、ほとんどの市民が水道の供給を受けている状況である。

(2) 1人1日平均有収水量(ℓ/人/日)

荒尾市		類団平均
R1年度	H30年度	H30年度
276	274	303

《算式》 平均有収水量＝1日平均有収水量÷給水人口

《説明》 給水人口1人1日当たりの水の使用量を表すもの。

《分析結果》 1人1日当たりの有収水量は276ℓである。前年度より2ポイント増加したが、類似団体平均は下回っている。

節水型社会への移行、節水意識の向上及び大口使用者の使用抑制が要因と考えられる。

(3) 有形固定資産減価償却率(%)

荒尾市		類団平均
R1年度	H30年度	H30年度
43.6	42.4	46.3

《算式》 有形固定資産減価償却率＝有形固定資産減価償却累計額÷償却対象資産の帳簿原価×100

《説明》 資産の減価償却済の割合を示すもので、減価償却の進み具合や資産の経過年数を知ることができ、施設更新、修繕等の必要性を把握し、施設管理の一層効果的な運用を図るための判断材料として活用できる。

《分析結果》 類似団体平均を下回っているが、近年比率は上昇傾向にある。施設整備計画の策定等を実施し、施設の更新計画を立てる必要がある。

2 施設の効率性

水道事業は施設型の事業であり、適切な投資が行われているか否かが経営を左右することになる。投資が適切であるか否かは、施設の効率性を分析することにより判断することができる。

(1) 有収水量率(%)

荒尾市		類団平均
R1年度	H30年度	H30年度
88.8	88.6	88.2

《算式》 有収水量率＝年間総有収水量÷年間総配水量×100

《説明》 配水量に対して料金収入の対象となった水量の割合を示すもの。

《分析結果》 前年度から0.2ポイント増加し、類似団体平均を0.6ポイント上回っているものの、高い数字とは言えない。

100%を下回っている要因の多くは漏水であると考えられ、引き続き老朽管の更新や適性な維持管理による漏水防止対策を進めていく必要がある。

(2) 配水負荷率(%)

荒尾市		類団平均
R1年度	H30年度	H30年度
91.1	91.3	87.8

《算式》 配水負荷率＝1日平均配水量÷1日最大配水量×100

《説明》 施設が年間を通して有効に利用されているかをみる指標。この比率が高いほど施設の効率性がよい。即ち100%に近いほど、施設が平均的に稼働していることを示す。

《分析結果》 前年度より0.2ポイント下がったが、類似団体平均を上回っており、施設は概ね効率的に利用されている。今後は人口減少により水需要の減少が予想されるため、水道施設の統廃合等を視野に入れた効率的な整備の検討が必要である。

(3) 施設利用率(%)

荒尾市		類団平均
R1年度	H30年度	H30年度
66.5	69.3	58.3

《算式》 施設利用率＝1日平均配水量÷1日配水能力×100

1日配水能力(R1年度) 23,200m³

《説明》 施設の利用が有効かつ適切に行われているかをみる指標。この比率が高いことは、施設の規模が適正であり施設が効率よく稼働していることを示す。

《分析結果》 前年度から2.8ポイント減少しているものの、類似団体平均を上回っており、施設は概ね効率的、かつ有効に稼働しているといえる。今後は人口減少により水需要の減少が予想されるため、引き続き水道施設の統廃合等を視野に入れた効率的な整備の検討が必要である。

(4) 最大稼働率(%)

荒尾市		類団平均
R1年度	H30年度	H30年度
73.1	76.0	66.5

《算式》 最大稼働率＝1日最大配水量÷1日配水能力×100

《説明》 施設の利用及び投資の適正化をみる指標。この比率が高いことは、一般に施設能力の設定が水需要に照らし適正になされていることを示す。

《分析結果》 前年度から2.9ポイント減少しているものの、類似団体平均を上回っており、概ね施設能力の設定が適正であると考えられる。今後は水道施設の稼働率が下がることが予想されるため引き続き留意が必要である。

(5) 配水管使用効率(m³/m)

荒尾市		類団平均
R1年度	H30年度	H30年度
12.7	12.9	21.3

《算式》 配水管使用効率＝年間総配水量÷導送配水管延長

導送配水管延長(R1年度) 444,400m

《説明》 導・送・配水管の布設延長に対する年間配水量の割合をみる指標で、給水区域の人口密度によって影響を受け、この数値が高いことは一般的に給水人口密度が高いと考えられる。

《分析結果》 前年度から0.2ポイント減少し、類似団体平均も下回っている。しかし、配水管使用効率は、人家等の密集度が高い大都市ほど高い傾向があり、集中よりも分散型住居地になる荒尾市の地域性を考慮すると、適正な数値だと考えられる。

(6) 固定資産使用効率(m³/万円)

荒尾市		類団平均
R1年度	H30年度	H30年度
6.7	6.7	7.1

《算式》 固定資産使用効率＝年間総配水量÷有形固定資産

《説明》 有形固定資産に対する年間配水量の割合を見る指標で、一般的にこの数値が高いことは施設が効率的に使用されていることを示す。

《分析結果》 昨年と変化はなく、類似団体平均よりも僅かながら下回っている。地理的条件によるものと考えられるが、今後、人口減少等により配水量の減少が予想され、施設の使用効率が低くなることも考えられるため、引き続き適正な施設規模を検討する必要がある。

3 経営の効率性

(1) 総収支比率(%)

荒尾市		類団平均
R1年度	H30年度	H30年度
108.7	111.4	113.7

《算式》 総収支比率＝総収益÷総費用×100

《説明》 損益収支の均衡度を収益対費用の関係で表した指標で、100%を超え、かつ高いほど経営成績は良好といえる

《分析結果》 費用の増加により、前年度から2.7ポイント減少している。指標は100%を超えているが、給水収益だけでは費用を賄えない状況になっている。今後は人口減少により給水収益の低下が予想されるため、経費削減だけでなく、料金改定等の検討も必要である。

(2) 経常収支比率(%)

荒尾市		類団平均
R1年度	H30年度	H30年度
108.7	111.4	113.9

《算式》 経常収支率 = (営業収益+営業外収益) ÷ (営業費用+営業外費用) × 100

《説明》 特別損益を除く経常的な収支を示した指標であり、100%を超えて、かつ高いほど経営成績は良好といえる。

《分析結果》 総収支比率と同様、費用の増加により前年度から2.7ポイント減少している。指数は100%を超えているが、施設、管路の老朽化に伴い年々修繕費が増加しているため、経費削減だけでなく料金改定等の検討も必要である。

(3) 繰入金比率(収益的収入)(%)

荒尾市		類団平均
R1年度	H30年度	H30年度
4.6	4.8	1.4

《算式》 繰入金比率 = 他会計繰入金合計(収益) ÷ 収益的収入 × 100

《説明》 一般会計からの繰入金依存度をみるもので、規模の小さい事業体ほど高い傾向を示す。

《分析結果》 類似団体平均を上回っているが、閉山炭鉱利子償還相当分及び基準内繰入によるもので、財源の有効活用が図られている。

(4) 給水収益に対する企業債利息の割合(%)

荒尾市		類団平均
R1年度	H30年度	H30年度
9.2	9.8	5.9

《算式》 給水収益に対する企業債利息の割合 = 企業債利息 ÷ 給水収益 × 100

《説明》 企業債利息を給水収益でどの程度賅っているかを示した指標である。水道事業は、施設型産業であり、設備投資の財源として企業債の依存度が高くなるので、減価償却費と同様に資本費の高騰に留意は必要である。

《分析結果》 年々減少しているが、類似団体平均より高くなっている。今後も老朽化した施設、管路を計画的に更新していく必要があるため、企業債の借入に頼らざるを得ない状況である。企業債利息の返済にあたり、料金改定等の検討が必要である。

(5) 給水収益に対する減価償却費の割合(%)

荒尾市		類団平均
R1年度	H30年度	H30年度
52.0	50.9	45.3

《算式》 給水収益に対する減価償却費の割合 = 減価償却費 ÷ 給水収益 × 100

《説明》 減価償却費を給水収益でどの程度賅っているかを示した指標である。

《分析結果》 前年度から1.1ポイント増加し、類似団体平均も上回っている。今後も老朽管更新工事などの投資が増え、給水収益の減少も予想されるため料金改定等の検討が必要である。

(6) 供給単価(円/m³)

荒尾市		類団平均
R1年度	H30年度	H30年度
149.49	148.22	137.02

《算式》 供給単価＝給水収益÷年間総有収水量

《説明》 有収水量1m³当たりの給水収益(売価)を示す。

《分析結果》 水1m³当たりの売価が類似団体平均より高くなっているが、給水原価、料金回収率とあわせてみると、料金水準は高くない状況である。

(7) 給水原価(円/m³)

荒尾市		類団平均
R1年度	H30年度	H30年度
148.45	145.25	129.84

《算式》 給水原価＝[経常費用-(受託工事費+材料及び不用品売却原価)-長期前受金戻入]÷年間総有収水量

《説明》 有収水量1m³当たりの給水に要する費用

《分析結果》 前年度より3円20銭上がり、類似団体平均より高い。今後は有収水量の減少が見込まれることから、適切な料金水準を維持するため、計画的に老朽管更新工事を実施し、修繕費用等の削減に努める必要がある。

(8) 料金回収率(%)

荒尾市		類団平均
R1年度	H30年度	H30年度
100.7	102.0	105.5

《算式》 料金回収率＝供給単価÷給水原価×100

《説明》 供給単価と給水原価の関係をみるもので、この料金回収率が100%を割り込むことは、給水に要する費用を水道料金で賄うことが難しくなってきていることを意味する。

《分析結果》 年々料金回収率が低下している。指数は100%を超えているが、適正な回収率を維持するため料金改定等の検討が必要である。

4 財務の状況

(1) 流動比率(%)

荒尾市		類団平均
R1年度	H30年度	H30年度
192.3	198.6	386.3

《算式》 流動比率＝流動資産÷流動負債×100

《説明》 短期債務に対する支払能力をみるもので、100%以上が望ましい。

《分析結果》 前年度から6.3ポイント減少しており、類似団体平均よりも下回っているが、100%を上回っており、短期債務に対する支払能力がある結果を表している。今後は企業債の借入が増える見込みのため引き続き留意が必要である。

(2) 当座比率(酸性試験比率ともいう)(%)

荒尾市		類団平均
R1年度	H30年度	H30年度
191.6	197.8	362.2

《算式》 当座比率 = {現金預金 + (未収金 - 貸倒引当金)} ÷ 流動負債 × 100

《説明》 支払義務として流動負債に対する支払手段としての当座比率(流動資産のうち、現金・預金、換金性の高い未収金等)の割合を示すもので、短期債務に対する支払能力をみる指標。この指標で支払能力をみる場合は、単に数字の大小のみならず、当座資産の大小が流動負債の大小かを確認することが大切である。

《分析結果》 類似団体平均よりも下回っているが、100%は超えているため当面の支払能力には全く問題はない。流動比率の結果と同様、企業債の借入が増える見込みのため留意が必要である。

(3) 自己資本構成比率(%)

荒尾市		類団平均
R1年度	H30年度	H30年度
60.7	61.2	74.5

《算式》 自己資本構成比率 = (資本金 + 剰余金 + 繰延収益) ÷ 負債資本合計 × 100

《説明》 総資本に占める自己資本の割合を示す指標である。水道事業は施設の建設費の大部分を企業債によって調達していることから、自己資本構成比率は低いものにならざるを得ないが、事業の安定化を図るためには自己資本の造成が必要である。また、自己資本は、負債とは異なり原則として返済する必要がない資本であり、その意味で資本コストはかからず、自己資本によって建設投資を行うほうが資本費を抑える結果となる。なお、自己資本のうち剰余金等の内部留保の構成率が高いほど資本構成の安全性が高いので、自己資本の構成の内容まで留意する必要がある。

《分析結果》 類団体平均を下回っているが、望ましいといわれる50%を上回っており、自立性が高く安定した財政状態である。今後も引き続き、利益剰余金を原資とした資本造成に努めることが必要である。

(4) 固定資産対長期資本比率(%)

荒尾市		類団平均
R1年度	H30年度	H30年度
95.0	95.5	89.4

《算式》 固定資産対長期資本比率 = 固定資産 ÷ (固定負債 + 繰延収益 + 資本金 + 剰余金) × 100

《説明》 固定資産がどの程度、自己資本などの長期資本によって調達されているかをみる指標で、常に100%以下で、かつ低いことが望ましい。100%を上回っている場合には、固定資産の一部が一時借入金等の流動負債によって調達されていることを示し、不良債務発生の原因となる。

《分析結果》 昨年度に比べ、0.5ポイント減少し、95%と100%以下で事業の安全性は確保されているが、若干高い傾向にあり類似団体平均も上回っている。自己資本での固定資産調達が若干低いということが考えられるため、今後の推移に注意を払う必要がある。